



事業の考え方

背景

少子高齢化の進展や東京2020オリンピック・パラリンピックの開催、また、外国人観光客や個人旅行の増加など観光を取り巻く状況の変化により、高齢者や障害者、外国人などの観光客の多様なニーズに対応できるような受入態勢の整備が求められている。

目的

誰もが安心して旅行を楽しめるよう、バリアフリー観光の受入環境を整備し、満足度の向上とさらなる誘客につなげる。

目指す姿

- 1.バリアフリー観光に係る相談態勢の整備
高齢者、障害者など幅広いニーズを持つ旅行者に、きめ細かな情報提供ができる。
- 2.社会全体でバリアフリー観光の理解が進む
社会全体で理解が深まり、おもてなしの向上につながると同時に気運が高まることで施設のハード、ソフト両面からバリアフリー化が進展。
- 3.バリアフリー観光の取組の認知度が向上
県外の観光客に高知県でのバリアフリー観光の受入状況が認知され、観光地として選ばれる。

R元年度までの取組

1 情報の収集・蓄積

- 観光、宿泊、交通施設の現地調査の実施（H30～）
・観光100施設 ・宿泊100施設 ・交通30施設



2 人材育成

- 研修の実施による現地調査スキルの習得（H30）
- 現地調査の実施によるスキルの習得（H30～）
- 相談対応スキルの習得（R元）

3 バリアフリー観光に関する理解の推進

- バリアフリー観光推進セミナーの開催（H29～）



4 関係機関との検討

- 高知県おもてなし県民会議バリアフリー観光推進部会における関係機関との相談窓口の設置に向けた検討（H30～）

5 バリアフリー観光ウェブサイト構築

- 収集、蓄積した施設等の情報を提供するウェブサイトを構築（R元構築、R2～公開）

令和二年度相談窓口の開設

R2年度取組（案）

1 相談窓口の安定的な運営

- 相談窓口業務（相談対応（電話、メール、対面）、観光関連施設の情報更新（調査、HP）等）の安定した実施

2 連携の強化・スキルアップ

- 案内所等関係機関との連携強化・情報共有の機会の創出
- バリアフリー観光相談対応に関するスキルアップ研修を実施

3 バリアフリー観光に関する理解の推進

- 観光関連事業者向けに広くバリアフリー観光に関する理解を深めるための研修会を開催

4 認知度の向上

- 高知県でのバリアフリー観光に関する取組の認知度を高めるため、国内外のエンドユーザー向け、旅行業者等へのプロモーションを実施

